領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	看護学概論	1	30	1	1	専任教員

科　目　目　標
看護学の歴史的変遷をふまえ、看護学の主要概念・看護活動について広く学び、現代における看護の機能や役割、及び課題について理解することができる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：看護学概論の構造と位置づけ 看護を学ぶ意味・看護の歴史的変遷 2回目：看護の対象としての人間① 統合体である人間(生物・社会・文化的存在) 基本的欲求、 3回目：看護の対象としての人間② ライフサイクルと発達課題、ストレスと適応 4回目：健康とは 健康・病気の捉え方、健康に影響をする要因 ウエルネス、ヘルスプロモーション、QOL 4回目：看護の定義と概念の変遷 5回目：看護実践のための理論的根拠① 6回目：看護実践のための理論的根拠② 7回目：看護実践の方法 看護技術、看護過程、臨床判断 クリティカルシンキング、EBN、 対人コミュニケーション 8回目：看護における倫理① 法的責任と倫理、医療の倫理原則、看護倫理、 看護者の倫理綱領 9回目：看護における倫理② 倫理的意思決定と行動化のプロセス 10回目：看護と法 保健師助産師看護師法、医療事故と法的責任 11回目：看護の役割と機能① 法的・倫理的責任、看護が機能する場 12回目：看護の役割と機能② 保健・医療・福祉の連携 13回目：病院機能とチーム医療 14回目：これからの看護の課題と展望 15回目：まとめ・試験	※看護師の実務経験を活かして講義を行う。 ※13回目の病院機能とチーム医療については、一人ひとりの患者（家族）に対し、多職種がどのような役割を果たすのかを実際に各部門長にインタビューをし理解する。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
「看護学概論」メディカ出版	「看護覚え書き」現代社 「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会

主とする授業形態	評　価　方　法
講義 グループワーク	筆記試験 80% レポート 20%

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	共通看護技術Ⅰ	1	30	1	1	専任教員

科　目　目　標
看護活動に共通する基本的な看護技術を習得できる。

講　義　内　容	留意点等
１回目：看護技術とは 看護技術の特徴、規則(安全・安楽・自立) 看護技術の範囲 看護技術を適切に実践するための要素 ２回目：コミュニケーション技術① コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素と成立過程 ３回目：コミュニケーション技術② 関係構築のためのコミュニケーションの基本 ４回目：コミュニケーション技術③ 効果的なコミュニケーションの実際 ５回目：コミュニケーション技術④ コミュニケーション障害への対応 ６回目：観察 観察の意義と目的 観察の方法 看護記録の意義と目的 看護記録の構成 報告の目的と方法 看護業務に関する情報の種類 情報の記録・報告・共有 ７回目：感染防止① 感染防止の基礎知識 ８回目：感染防止② 標準予防策 ９回目：感染防止③ 標準予防策 10回目：感染防止④ 感染経路別予防策 11回目：感染防止⑤ 洗浄・消毒・滅菌 12回目：感染防止⑥ 無菌操作 13回目：感染防止⑦ 感染性廃棄物の取り扱い 14回目：安全確保の基礎知識（患者誤認防止・転倒転落防止） 15回目：まとめ・試験	演習： コミュニケーション 衛生学的手洗い 無菌操作 （鑷子の取り扱い、滅菌物の取り扱い） 必要な防護用具の着脱 （ガウン、エプロン、手袋） ※看護師の実務経験を活かして、講義と技術演習を行う。 ※衛生学的手洗い、必要な防護　用具の着脱は技術チェックを行う。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 基礎看護学２「基礎看護技術Ⅰ」 基礎看護学３「基礎看護技術Ⅱ」医学書院	「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習 グループワーク	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	共通看護技術Ⅱ	1	30	1	2	専任教員

科　目　目　標
看護過程の構成要素を理解し、看護過程を展開する技術を習得できる。

講　義　内　容	留意点等
１回目：看護過程の概念 看護過程における構成要素 看護過程展開の基盤となる考え方 看護理論と看護過程 ２回目：看護過程の各段階① アセスメント（情報の種類・情報収集の方法） ３回目：看護過程の各段階② アセスメント（分類:看護過程と看護理論） ４回目：看護過程の各段階③ アセスメントの実際（情報収集・分類） ５回目：看護過程の各段階④ アセスメント（分析・全体像の把握） ６回目：看護過程の各段階⑤ アセスメントの実際（分析・全体像の把握） ７回目：看護過程の各段階⑥ アセスメントの実際（分析・全体像の把握） ８回目：看護過程の各段階⑦ 看護問題の明確化（看護問題） ９回目 ：看護過程の各段階⑧ 看護問題の明確化の実際（看護問題） １０回目：看護過程の各段階⑨ 看護計画 １１回目：看護過程の各段階⑩ 看護計画の実際 １２回目：看護過程の各段階⑪ 実施・評価 １３回目：看護過程の各段階⑫ 実施・評価の実際 １４回目：看護診断・共同問題 １５回目：まとめ・試験	※看護師の実務経験を活かして、講義と事例を用いた看護過程の展開を行う。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 基礎看護学2「基礎看護技術Ⅰ」医学書院	「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会 「ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント」ヌーヴェルヒロカワ 「看護過程に沿った対症看護」学研 「改訂版　実習記録の書き方が分かる看護過程展開ガイド」照林社 「今日の治療薬」2023　南江堂

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、グループワーク	レポート　70% 筆記試験　30%

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	フィジカルアセスメント	1	30	1	2	専任教員

科　目　目　標
対象の健康状態を把握し、アセスメントする技術を習得できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：看護におけるフィジカルアセスメントの意義 フィジカルアセスメントの基本原則 フィジカルアセスメントの基本技術 問診・視診・触診・打診・聴診 2回目：スクリーニング 一般状態の観察・全身の概観 基礎データ 身体計測（身長・体重・胸囲・腹囲） 3回目：バイタルサインの測定 呼吸・体温・脈拍・血圧 4回目：バイタルサインの測定 呼吸・体温・脈拍・血圧 5回目：バイタルサインの測定の実際 呼吸・体温・脈拍・血圧 6回目：バイタルサインの測定の実際 呼吸・体温・脈拍・血圧 7回目：呼吸器系 8回目：呼吸音聴診の実際 9回目：循環器系 10回目：心音聴診の実際 11回目：消化器系 12回目：感覚器系 13回目：運動器系 14回目：中枢神経系 15回目：技術試験・筆記試験	演示： 意識レベルの観察 リンネテスト 演習： バイタルサイン測定技術 1）体温　2）脈拍 3）呼吸　4）血圧 5）1）～4）一連の流れ 肋間の同定 呼吸音の前後面の聴診 心音の聴診 パルスオキシメーターでの測定 腸蠕動音の聴診 外眼球運動 視野のスクリーニング 対光反射 身体計測 問診 ＊適宜フイジカルアセスメントモデルを使用 ※看護師の実務経験を活かして、講義と技術演習を行う。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 基礎看護学2「基礎看護技術Ⅰ」医学書院 「フィジカルアセスメントガイドブック」医学書院	「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習、演示	筆記試験 50% 技術試験 50%

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	生活援助技術Ⅰ	1	30	1	1	専任教員

科　目　目　標
人間にとっての環境と活動・休息の意義を理解し、安全・安楽に援助する技術を習得できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：快適な病床環境 1．環境の調整の意義 2．療養環境のアセスメント 1)患者の生活環境の条件　2)病棟・病室の構造・機能 3．療養環境の調整と整備 2回目：快適な病床環境の実際 3回目：快適な病床作り① 1．ベッドの作成方法　2．リネンのたたみ方 4回目：快適な病床作り② 1．ベッドメーキングの実際 5回目：快適な病床作り③ 1．ベッドメーキングの実際 6回目：快適な病床作り④ 1．ベッドメーキングの実際 7回目：快適な病床作り⑤ 1．臥床患者のリネン交換 8回目：活動と休息① 1．活動と休息の意義　2．活動と休息に影響する因子 3．活動と休息のアセスメント　4．ボディメカニクス 9回目：活動と休息② 1．活動と休息を促す援助 1)移動(体位変換、移乗、移送)の援助 2)睡眠を促す援助 10回目：活動と休息③ 1．援助の実際　1)臥床患者の体位変換 11回目：活動と休息④ 1．援助の実際　1)車椅子への移乗と移送 12回目：活動と休息⑤ 1．援助の実際　1)ストレッチャーへの移乗と移送 13回目：安楽確保の援助① 1．安楽の概念　2．安楽な姿勢・体位の特徴 3．安楽を提供するためのケア 14回目：安楽確保の援助② 1．援助の実際　1)体位保持　2)温罨法・冷罨法 15回目：まとめ・試験	演習： 快適な療養環境の整備 ベッドメーキング 臥床患者のリネン交換 臥床患者の体位変換 歩行・移動への援助 (杖・歩行器も含む) ベッドから車椅子への移乗 車椅子移送 ベッドからストレッチャーへの移乗 ストレッチャー移送 温罨法・冷罨法（体温調整の援助） 安楽な体位保持 ※ベッドメーキングは技術チェックを行う。 ※看護師の実務経験を活かして、講義と技術演習を行う。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 基礎看護学3「基礎看護技術Ⅱ」医学書院	「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	生活援助技術Ⅱ	1	30	1	1	専任教員

科　目　目　標
人間にとっての食事と排泄の意義を理解し、安全・安楽に援助する技術を習得する。

講　義　内　容	留意点等
1回目：食事の意義 食行動のメカニズム 2回目：栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメント 医療施設で提供される食事 3回目：食事介助の実際 4回目：摂食・嚥下訓練 5回目：非経口的栄養摂取の援助 経管栄養法 中心静脈栄養法 6回目：排泄の意義 排泄（排尿、排便）のメカニズム 7回目：排泄行動に影響する要因のアセスメント 8回目：自然排尿および自然排便への援助の実際 1. トイレにおける排泄介助 2. 床上での排泄援助 3. オムツによる排泄援助 9回目：尿器・便器の選択と排泄介助の実際 10回目：陰部洗浄の実際 ポータブルトイレでの排泄援助の実際 11回目：オムツ交換の実際 12回目：尿失禁・排尿困難時の援助 便失禁の援助 13回目：排便を促す援助 便秘のアセスメント 浣腸・摘便 14回目：浣腸・摘便の実際 15回目：まとめ・試験	演習： 食事介助（嚥下障害除く） 尿器、便器の選択と排泄介助 ポータブルトイレでの排泄援助 陰部洗浄 オムツ交換 浣腸、摘便 ※看護師の実務経験を活かして、講義と演習を行う。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 基礎看護学3「基礎看護技術Ⅱ」医学書院	「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習	筆記試験 80% 提出物　 20%

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	生活援助技術Ⅲ	1	30	1	1	専任教員

科　目　目　標
人間にとっての清潔と衣生活の意義を理解し、安全・安楽に援助する技術を習得できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目:衣生活① 衣服を用いることの意義 熱産生、熱放散 被服気候 衣生活に関するニーズのアセスメント 2回目:衣生活② 病衣の選び方、交換の基準、寝衣交換のポイント 寝衣交換の実際 3回目:衣生活③ 臥床患者の寝衣交換の実際 4回目:清潔援助の基礎知識 清潔の意義（身体、心理、社会的） 清潔行動とは 清潔行動に影響を与える因子 清潔方法、効果、原則、援助の選択方法 5回目:清潔① 入浴とシャワー浴の目的、方法 清拭の目的と方法、実際 6回目:清潔② 臥床患者の全身清拭 7回目:清潔③ 臥床患者の全身清拭と寝衣交換 8回目:清潔④ 洗髪の目的と方法、実際 9･10回目:清潔⑤ 臥床患者の洗髪（ケリーパッド、洗髪車） 11回目:清潔⑥ 手浴、足浴の目的と方法、実際 12回目:清潔⑦ 臥床患者の手浴、足浴 13回目:清潔⑧ 整容の目的と方法 口腔ケアの目的と方法、実際 14回目:清潔⑨ 口腔ケア（歯ブラシ、スポンジブラシ） 15回目:技術試験・筆記試験	演示： 足浴（座位保持可能患者） 臥床患者の洗髪（洗髪車） 演習： 臥床患者の手浴、足浴 臥床患者の清拭 臥床患者の洗髪・整容 （ケリーパッド） 口腔ケア （歯ブラシ、 スポンジブラシ） 臥床患者の寝衣交換 ※看護師の実務経験を活かして、講義と技術演習を行う。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 基礎看護学3「基礎看護技術Ⅱ」医学書院	「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習、演示	筆記試験 50% 技術試験 50%

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	診療時援助技術Ⅰ	1	30	2	2	専任教員

科　目　目　標
1. 与薬、採血の目的を理解し、安全・安楽に実施するため技術を習得できる。 2. 医療機器の基礎知識および正しい取り扱いについて理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目: 静脈血採血 挿入部位、採血方法、採血後の観察内容・採血に関する有害事象 2回目：採血の実際（演習） 3回目：与薬の基礎知識（与薬の目的、与薬時の看護師の役割） 薬剤の種類と取り扱い方法、与薬方法と効果の観察、 与薬の副作用（有害事象）の観察 4回目:経口与薬、口腔内与薬 吸入、点眼・点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬 5回目：直腸内与薬の実際（演習） 6回目：注射法（注射の基礎知識） 皮下注射、皮内注射、筋肉内注射 7回目：注射の準備（演習） 薬液の吸い上げ 8回目：皮下注射の実際（演習） 9回目：筋肉内注射の実際（演習） 10回目：静脈内注射、点滴静脈内注射、中心静脈カテーテル法 11回目：静脈内注射、点滴静脈内注射の実際（演習） 12回目：点滴静脈内注射の実際　（演習） 13回目：医療機器を使用する患者の看護：医療機器の原理、 安全対策、輸液ポンプ・シリンジポンプ、人工呼吸器の取り扱い 14回目：輸液ポンプ・シリンジポンプの操作の実際（演習） 15回目：まとめ・試験	演示： 皮内注射 静脈内注射 演習： 薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤） 経口薬（バッカル錠・内服薬・舌下錠）の投与 経皮・外用薬の投与 直腸内与薬 採血（真空管） 検体（血液）の取り扱いの実際 皮下注射 筋肉内注射 点滴静脈内注射とその管理 輸液ポンプの操作 シリンジポンプの操作 人工呼吸器の取り扱い ※看護師の実務経験を活かして、講義と技術演習を行う。 ※モデル人形への静脈血採血については技術チェックを行う。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 基礎看護学3「基礎看護技術Ⅱ」 基礎看護学4「臨床看護総論」　医学書院	「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習、演示	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	診療時援助技術Ⅱ	1	30	2	1	専任教員

科　目　目　標
検査・治療・処置の目的を理解し、安全・安楽に実施するための技術を習得できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目:検体検査 血液検査 尿検査 便検査 喀痰検査 2回目：生体情報のモニタリング 1. 心電図検査　2. 心電図モニター 3. Sp02モニター　4. 血管留置カテーテルモニター 検査の介助の実際（心電図検査） 3回目:生体検査 Ｘ線撮影 コンピューター断層撮影（ＣＴ） 磁気共鳴画像（ＭＲＩ） 内視鏡検査 超音波検査 肺機能検査 核医学検査 4回目:穿刺の介助 胸腔穿刺、腹腔穿刺、腰椎穿刺、骨髄穿刺、持続吸引 5回目:酸素吸入の適応と方法 6回目:酸素ボンベの取り扱い・酸素吸入療法の実際(演習) 7回目:排痰法の適応と方法 口腔内・鼻腔内吸引、体位ドレナージ ネブライザーを用いた気道内加湿 8回目：排痰法の実際①（演習） 口腔内・鼻腔内吸引、体位ドレナージ 9回目:排痰法の実際②（演習） 気管内吸引、ネブライザーを用いた気道内加湿の実際 10回目:皮膚・創傷の管理 創傷管理 褥瘡予防・処置、包帯法 11回目：褥瘡予防ケアの実際、創傷処置（創洗浄、創保護）の実際 包帯法の実際（演習） 12回目：導尿 13回目:一時的導尿の実際、膀胱留置カテーテル挿入・管理の実際（演習） 14回目：輸血：輸血の種類と取り扱い方法、輸血の管理方法 輸血の副作用（有害事象）の観察（演習） 15回目:まとめ・試験	演習： 酸素ボンベの取り扱い 酸素吸入療法 口腔・鼻腔内吸引、 気管内吸引 ネブライザーを用いた気道内加湿 体位ドレナージ 包帯法 一時的導尿 膀胱留置カテーテル挿入・ 管理 褥瘡予防ケア 創傷処置（創洗浄、創保護） 検査の介助 輸血の管理 ※看護師の実務経験を活かして、講義と技術演習を行う。 ※口腔・鼻腔内吸引は技術チェックを行う。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 基礎看護学3「基礎看護技術Ⅱ」医学書院	「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習、演示	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	臨床看護総論Ⅰ	1	15	1	2	専任教員

科　目　目　標
1. 健康障害のある対象の健康レベルに応じた看護を理解できる。 2. 看護における学習支援の基礎的知識が理解できる。 3. 救命救急時の対応の基本を理解できる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：急性期における看護 急性期の特徴、急性期の患者のニーズ 急性期にある患者への看護援助 2回目：慢性期における看護 慢性期の特徴、慢性期の患者のニーズ 慢性期にある患者への看護援助 3回目：リハビリテーション期における看護 リハビリテーション期の特徴 リハビリテーション期の患者のニーズ リハビリテーション期にある患者への看護援助 4回目：終末期における看護 終末期の特徴、終末期の患者のニーズ 終末期にある患者への看護援助 5回目：救命救急を必要とする患者の看護① 救命救急を必要とする患者の特徴 救命救急を必要とする患者のニーズ 救命救急を必要とする患者の看護援助 6回目：救命救急を必要とする患者の看護② 一次救命処置 1.心肺蘇生（胸骨圧迫、気道確保、人工呼吸）　2.AED 二次救命処置 1.気管挿管の介助　2.直流除細動　3.止血法 7回目：看護における学習支援 個別指導・集団指導の特性と適応、諸理論の活用 健康に生きることを支える学習支援、健康状態の変化に伴う学習支援 対象者に合わせた目標設定、支援方法、媒体の工夫 8回目：試験(45分)	演習：　緊急時の応援要請 一次救命処置 止血法 ※看護師の実務経験を活かして、講義と技術演習を行う。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 基礎看護学3「基礎看護技術Ⅱ」 基礎看護学4「臨床看護総論」　医学書院	「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習	筆記試験

領域:専門分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
基礎看護学	臨床看護総論Ⅱ	1	30	2	1	専任教員

科　目　目　標
1. 主要症状を示す対象への看護を理解できる。 2. 治療を受ける対象の看護を理解できる。 3. 臨床判断のプロセスを用いて症状に対する看護について考えることができる。

講　義　内　容	留意点等
1回目：臨床判断とは何か 臨床判断能力とは 臨床判断のプロセス 2回目：呼吸・循環に関連する症状を示す患者への看護 呼吸・循環機能障害に関連する症状のメカニズム 呼吸・循環障害に関連する看護上のニーズ判別のアセスメント 3回目：呼吸・循環障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助 4回目：事例による看護実践の展開1（循環障害） 5回目：事例による看護実践の展開2（循環障害） 6回目：事例による看護実践の実施・評価（循環障害）（演習） 7回目：栄養や代謝に関連する症状を示す患者への看護 ・栄養障害や代謝障害に関連する症状のメカニズム ・栄養障害・代謝障害に関連する看護上のニーズ判別のアセスメント 8回目：栄養障害・代謝障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助 9回目：経鼻胃カテーテルの挿入の実際(演習) 10回目：排泄に関連する症状を示す対象への看護 ・排泄障害に関連する症状のメカニズム ・排泄機能障害に関連する看護上のニーズ判別のアセスメント ・排泄機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助 11回目：　治療を受ける対象への看護 ・輸液療法を受ける患者の看護 輸液療法の目的・特徴 輸液療法を受ける患者への看護 ・化学療法を受ける患者の看護 化学療法の目的・特徴 化学療法を受ける患者・家族の看護 ・放射線療法を受ける患者の看護 放射線療法の目的・特徴 放射線療法を受ける患者・家族への看護 12回目：持続点滴静脈内注射実施中の患者の寝衣交換（演習） 13回目：安楽に関連する症状を示す患者への看護 ・安楽に関連する症状のメカニズム ・安楽に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント ・安楽に関連するニーズ充足に向けた看護援助 14回目・認知や知覚に関連する症状を示す患者への看護 ・認知や知覚に関連する症状のメカニズム ・認知や知覚に関連する看護上のニーズ判別のアセスメント ・認知や知覚に関連するニーズ充足に向けた看護援助 15回目：まとめ・試験	演習：経鼻胃カテーテルの挿入 栄養物の注入 薬剤の管理（抗悪性腫瘍薬） 人体へのリスクの大きい薬剤の暴露防止（抗悪性腫瘍薬） 放射線の被ばく防止策 持続点滴静脈内注射を実施中の患者の寝衣交換 ※事例による看護実践では、循環障害の事例を用いて展開する。 ※看護師の実務経験を活かして、講義と技術演習を行う。

テ　キ　ス　ト	サ　ブ　テ　キ　ス　ト
系統看護学講座　専門分野 基礎看護学2「基礎看護技術Ⅰ」 基礎看護学3「基礎看護技術Ⅱ」 基礎看護学4「臨床看護総論」　医学書院	「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院 「看護過程に沿った対症看護」学研

主とする授業形態	評　価　方　法
講義、演習	筆記試験 80% レポート 20%